

## 地域子供の未来応援交付金交付申請とりまとめ表(第4回目(追加分))

都道府県名	市区町村名	区分	事業概要
<b>(1)実態調査・分析、支援ニーズに応える資源量把握及び支援体制の整備計画策定</b>			
愛知県	豊橋市	(1)①実態調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学1年生、4歳児の保護者、小学5年生、中学2年生、生活保護世帯、ひとり親世帯、就学援助受給世帯の保護者と子どもから抽出した3,700世帯(5,940名)を対象に、家庭の収支状況(借金等含む)、就労状況、住宅事情等、子どものお小遣い、所有物、学校生活、家庭生活や態度、保護者の生活習慣、友人・親戚関係等についてアンケート調査を行い、地域性を考慮して設定した市内9区域単位の細かい分析を行う。</li> <li>・調査結果は、次年度以降に、コーディネータの位置付けを含む具体的な体制整備や本交付金を活用した子どもの居場所づくり等の先行的なモデル事業の実施・展開に活用していく。</li> <li>・なお、愛知県が全県調査を実施しているものの、当該調査においては県内全域及び豊橋市を含む東三河南部圏域を把握するため、豊橋市においては、保護者は約1,000人、子どもは約700人の調査客数であり、豊橋市の実態を9区域単位で把握するためには必ずしも十分な調査客数とは言えないことから、愛知県の調査票を活用しつつも、豊橋市の地域特性に鑑み、学校区、祖父母との近居・支援の状況、放課後の居場所等を市独自の設問として追加している。</li> </ul>
<b>(3) 地方自治体独自の先行的なモデル事業</b>			
三重県	名張市	(3)モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは大人が集う場所市民センターを始めとする地域の施設等の10か所に、新たに「子どもの居場所」としての機能が発揮できるような備品(机・椅子、遊具、餅つき機等のイベント用品等)を配備する。「子どもの居場所」では、多くの地域の大人の目(それぞれのセンター職員(地域づくり組織が雇用)やボランティア団体等地域住民)が、子ども達を見守り、日々の声かけ等による自然発生的な大人との信頼関係が築き上げられる環境づくりを行い、日常的に問題を抱える子どもからのサインを見逃さず、支援が必要な子どもを発見できる場とする。</li> <li>・「子どもの居場所」へは、専門的なスキルを持つ貧困対策コーディネーター(区分(2)で今年度整備済み)が巡回することで、名張市の地域ネットワーク(名張市地域福祉教育総合支援システム)とも連携しながら、必要な支援につなげていく子どもの見守り支援のしくみを構築する。あわせて、今年度は元教員等を賃金雇用し、毎日40か所程度の子どものたまり場を巡回することにより、放課後の子どもの動向を把握し、支援が必要な子どもの「子どもの居場所」への誘導や、名張市地域福祉教育総合支援システムへのつなぎを行う。これにより、次年度以降の地域等での継続的な見守り支援につなげる。</li> </ul>